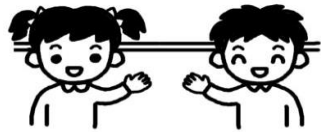


ロビーを少しでも楽しくしちゃいます

作品展



MOA美術館帯広児童作品展

特別賞展

公立病院ロビーにて展示会を開催します

期間 平成23年12月12日から
平成23年12月22日まで

十勝管内の小学生を対象に10月15・16日開催された『第23回 MOA美術館帯広児童作品展』において特別賞を受賞した絵画7点、書道7点を展示します。

この作品展は、海外15カ国を含む405会場で開催されている作品です。

待ち時間にゆっくりと楽しんでください

恒例

ロビーコンサート開催

芽室合唱団
公立芽室病院クリスマスロビーコンサート

平成23年12月15日 木曜日 午後6時から
公立芽室病院 待合ロビーにて

プログラム

- 1.雪の降る街を 2.ふるさと 3.赤とんぼ
- 4.哀しみのソレアード(女声二部合唱)
- 5.ともしび(男声二部合唱)
- 6.エール
- 7.(宮本名誉院長)
- 8.聖夜
- 9.荒野の果てに
- 10.遙かな友に



会員募集中

随時募集しています。

会員の要件	公立芽室病院を利用している人	} そういう人なら どこに住んでいても OKです
	公立芽室病院を大切に思う人	
	お医者さんや看護師さんを応援したい人	

- ★ 問い合わせ 会長宅 62-1439
事務局 62-2516
- ★ 年会費は 1000円 です

支える会 つうしん

公立芽室病院をみんなで支える会広報
第3号
2011年12月7日発行

第1回 懇談会 無事終了!

10月27日(木)病院スタッフとの懇談会が行われました。

参加者は、病院スタッフ5名と支える会会員等18名。小窪院長から5月のボランティア活動の報告を受けました。津波と地震による被害のこと。避難生活では、食事・水など多くの当たり前でない現実をお聞きすることができました。厳しい現実のお話を聞いて他人事とは思えませんでした。

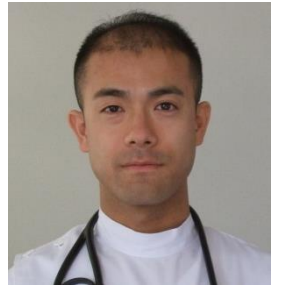
その後、病院の設備や近況についての説明を受けるなど公立芽室病院の実情について具体的なお話を聞く貴重な時間となりました。

そして、私たちの質問に対してひとつひとつ丁寧に答えていただきました。(詳しくは次のページで)



病院スタッフ紹介コーナー

11月1日付けで赴任されました医師を紹介いたします。(先生に無理を言って自己紹介文をいただいたのでお読み下さい。)



芽室町の皆様、初めまして。
このたび公立芽室病院に内科医として勤務することになりました堀と申します。以前は札幌や道南の八雲で循環器内科を中心に働いていましたが、漢方を勉強したいという思いがあり、こちらへお世話になることになりました。まだ漢方を勉強して日が浅いのですが、少しでもみなさんのお力になればと思いますので、ちょっとしたことでも相談して下さい。どうぞよろしく願いいたします。

※ 公立芽室病院は、漢方を勉強し資格を取りたい医師の研修ができる病院に指定されています。(詳しくは、「つうしん」で特集しますのでお待ち下さい。)
そのことから今回ご縁があって芽室町に赴任していただくことができました。医師確保が難しい時代に芽室町にいらしてくださる医師がいることに感謝したいと思います。

懇談会では

- マルチスライスCTのこと
- MRIのこと
- 東洋医学会認定施設（漢方の研修施設）のこと
- 認知症のこと
- ジェネリック医薬品のこと
- TPPと医療の問題について

などなど多岐にわたる話題がありました。
一度にお知らせできないので何号かに分けてお知らせします。

◇◇◇ 今回は マルチスライスCT のことについて ◇◇◇



マルチスライスCT ってなあに？
すごいってなにがすごいのかな？



マルチスライスCTの画像が
3D・立体ってどういうこと？



マルチスライスCTは、検査して、その場で見られるCTスキャンのこと。従来の機械との大きな違いは、1分ちょっとですぐに画像が出ること、3DCCTで立体的に見えること。造影剤を使わなくとも下肢静脈瘤の検査ができること。

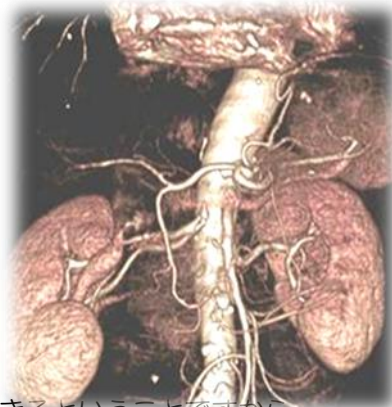
CTで撮影された画像が、組み合わせり立体画像となって表わされる。そのことにより見る角度を変えられるので正面からはわからない裏側の血管のコブなどが見つけれられる。具体的な形や大きさ、ねじれなどもみられることから身体を切らずに中の様子を知ることができる。

全国でも10本の指に入るくらいの凄い機械が芽室町にあると聞いてびっくり。

CTというのは、コンピューテッド・トモグラフィ（Computed Tomography）、つまりコンピュータ断層撮影の略称です。広い意味で使う場合はMRIはもちろん、コンピュータを使って物体を破壊することなくその断面像を撮影するあらゆる手法を指す。でも、一般にCTという場合は、X線を使ったX線CTのことを指す場合が多い。

X線CTの基本はレントゲン写真と同じ。レントゲンというのは、X線を身体に照射して、透過したX線の量の違いから、内部の画像を作り出す。ただし、CTの場合は、検査機を身体の周りを一周させて、X線をいろんな方向から照射している。そして、その結果をコンピュータで処理して、立体的な映像を再構成している。（MRIはマグネティック・レゾナンス・イメージ（Magnetic Resonance Image）、訳すと磁気共鳴画像の略称。）

鮮明にみることができます。
これによってどこが悪いかの確に見つけてもらえるようになりました。
手術の時にもしっかり情報が
多いということは医師が的確に処置できるということですから
私たち患者にもメリットが多いということ。
すごい機械が芽室町にあることを知っていただける機会が持ててよかった。公立芽室病院の良さを知らないとわざわざ帯広まで苦労して通うことになってしまいますから……。



＜小窪院長医療ボランティア報告から＞ 連載2

『お風呂の話』

公立芽室病院の小窪院長が、南三陸町などにて参加した医療ボランティアについての貴重なお話の中に「お風呂」の話がありました。

お風呂といったら本来暖かなイメージなのだが、震災は私たちにお風呂の持つ意味をひとつ考えさせた。「津波で体の濡れた人は、服も濡れ体温を奪われた。あの時温かいお風呂が用意できたら助かったはずの命低体温症で失うことはなかった……だろう……」大災害のなか多くの人が傷つき、疲れ果てていた。

低体温症は、思ったより冷え込んだ夜の疲れた体には堪える。小窪院長は、この話を鋭く深い目で落胆のような、怒りのような、力及ばなかった哀しみのような表情で語っていた。

誰もがすぐに飛んで行きたかった。手を差し伸べたかった。

でも道は寸断され、救援の手も医療の手もすぐには届けられなかった。

「低体温症」を予測することができ、温める手段があったなら救える命がもっとあったのではないだろうか？

「お風呂」今まで何気なく毎日入っていたお風呂。

震災を経験し、ボランティアの話を聞くうちに体を温めるお風呂にゆっくりつかって「ふー」というひと時の価値の重みを知ることとなった。

お風呂に入って心も体も癒せる環境を保つこと。

生活していく中では大変な事も多いけれど、その中で生きていくとき「お風呂」って結構大切だなと思った。



小窪院長 インタビュー後記

私たちは、あたたかなお湯でゆっくり冷えた体をほぐし、一日の疲れを湯船で癒すと自然と心まで安らぐ、そんな毎日を送っています。



「日本人って温泉好きですね。」

「お風呂は疲れを取ってくれる。明日から頑張れる。」
お風呂に入りリラックスすることで疲れを取り精神的なエネルギー補給になる。

日本のお風呂というお湯にゆっくりつかる文化が、大きな癒しの効果があると体感した方の話には引き込まれる魅力がある。

小窪院長のお風呂を語った声や表情を思い出しながら「毎日お風呂に入れることは贅沢なんだなあー」と感じています。